

— テストの訂正どうしてますか? —

今年度最初の定期考査、手応えはどうでしたか? そろそろ各教科のテストが返却された頃ですね。「クラスの平均点より上だった!」もしくは、「平均点より下だった〜。」と自分の順位が気になるころではあります…。定期考査は授業で学んだことがどれくらい身についているかを確認するためのものです。返却されたテストの点数を見て、一喜一憂して終わりというだけでは、おそらく次のテストでもあまり成績が上がることはありません。定期テスト返却後の行動が、次回の考査の成績を左右すると言っても過言ではないのです。そこで今回は、テスト返却後に行うべきことを書いてみたいと思います



1. 解けなかった問題に再チャレンジ!

真剣に取り組んだテストで問題が解けなかったのであれば、必ず解けなかった原因があるはず。「ケアレスミス」「覚えていなかった」「時間が足りなかった」などが原因として考えられますが、あなたには何がたりなかったのでしょうか? 問題を解き直して、原因を確認したら訂正ノートに書き出しておきましょう。「答えだけ書いておしまいっ!」ではなく、次回の考査前に活用できるノートを作りましょう。



確認したら訂正ノートに書き出しておきましょう。「答えだけ書いておしまいっ!」ではなく、次回の考査前に活用できるノートを作りましょう。

2. 同じミスをしないように対策を考える!

①ケアレスミスで間違った…。

たとえば、計算ミスだったとしても、「計算式の字が汚くて読み間違えた」「焦って問題を読み間違えた」などいくつかの要因が考えられます。まずは数式や計算過程を丁寧に書きましょう。面倒だと感じるかもしれませんが、図にしたり、要点を書きだしたりすることもあなたの理解を助けてくれます。また、答えは採点者に見てもらうものなので、相手が読み取れる程度に文字は丁寧に書きましょう。

②正確に覚えていなかった…。

「この部屋ではお静かに。」

“You must keep quite in this room.”

↑の英文の誤りに気がつきましたか? そう、正しくは、“You must keep quiet in this room.”です。“quite(全く・かなり)”と“quiet(静かな)”, 単語の綴りは似ていますが意味は全く異なりますよね。訂正するときには、正確に覚えましょう。

③時間が足りなかった…。

問題を解くときに、第1問から順番に解いていませんか? 問題を最後まで一通り見て、自分が得意な分野の問題や簡単だと思える問題から手を付けましょう。その後、難しい問題とじっくり向き合みましょう。全体を見通してから解き始めることが重要です。日々の学習においても、できるところから確実に取り組みましょう。



3. 収穫点を考える!

テストでは、間違ったところなどの悪いところに着目することも大切ですが、同時に良かったところに着目することも重要です。比較的点数が良かった科目や、前回より点数が伸びた科目があったら、「なぜ良い点数がとれたか」を考えてみましょう。

定期テスト前にやってきた勉強を振り返り、こういう勉強法をしたから良い結果につながったのではないかとことを明らかにしておけば、次のテストでも自信をもって取り組むことができるでしょう。また、点数が伸び悩んだ科目にも、収穫があった勉強法を応用できるかもしれません。



テストは、テスト前だけ一生懸命取り組みればよいというものではありません。今回の中間考査の結果をしっかり受け止め、次に繋げる対策を講じることが大切です。

【進路関係の行事】

6月 1日(金)	英語検定[一次試験]
6月 2日(土)	進研マーク(3年)
6月 3日(日)	第2種電気工事士[筆記] 進研マーク(3年)
6月 5日(火)	実力考査①
6月 6日(水)	実力考査②
6月 8日(金)	3年1組 放課後課外開始
6月10日(日)	危険物取扱者試験
6月14日(木)	第1回進路セミナー
6月15日(金)	計算技術検定 漢字検定
6月16日(土)	土曜講座④
6月26日(火)	1学期 期末考査
~29日(金)	
6月30日(土)	進研記述模試(1~3年)
7月 1日(日)	進研記述模試(3年)

5月下旬から6月上旬にかけて、高校総体県予選会が行われています。部活動にも学業にも一生懸命取り組むためには、スケジュール確認が大切です。実現不可能な計

画を立てて無理矢理取り組んでも、途中でエネルギー切れになってしまい、やる気スイッチも入らなくなってしまう…。

6月は、進研マーク模試(3年)、実力考査、期末考査と試験が続きます。テスト直前になって慌てることのないように、学習スケジュールには「予備日」を設けながら、逆算して予定を立てましょう。具体的には、月末に配布される「行事予定」と「学習と生活の記録」の活用をオススメします。学習と生活の記録は、終わったことを記録するためだけではなく、やるべきことを書き留めておくための備忘録としても使えるスケジュールモノです。大会や試験の「本番」で力を発揮するためには、事前の「準備」が大切です。「いつまでに」、「何を」やればよいのか分かるように、スケジュールを立てて学習に取り組みましょう。



— 志望理由書が書けますか? —

推薦・AO入試や就職試験では、「志望理由書」の提出が求められます。「自分がなぜその学校、その学部学科を志望しているのか。またはその企業を志望しているのか。」を考えることは、文理選択や進路を考えるうえでも非常に重要なことです。

志望理由書を書くときのアドバイス

①具体的な経験・出来事をもとに志望理由を書こう。

- ・劇的な出来事である必要はありません。あなたがその経験や出来事からどのような課題意識を持つようになったのかが大切です。
- ・その経験や出来事について、調べたこと、取材したことなどを土台に、あなたの知識・技能・考え方をアピールしましょう。

②将来学びたいことをデザインしよう。

- ・「社会に出たときに、どんなことをしたいか」そのために上級学校で「何を学ぶか」など、あなたの将来像を明確にしておきましょう。
- ・あなたがその学部・学科で学ぶことによって、将来どのような形で社会に貢献できるのかという視点から考えましょう。

大学や専門学校のパンフレットに載っている情報を書いたり、相手のことを褒めたりすることが良い志望理由書ではありません。志望理由書には「自分」のことを掘り下げて書きましょう。



【最後に】1, 2年生はまだ具体的な進路先が決まっていない人も多いかもしれません。あるいは何となく「知っている名前の学校」、「保護者や先輩のオススメ」、「学費の安さ」などで決めてはいませんか?そこからもう一歩踏み込んで自分自身に問いかけてみましょう。「自分がなぜその学校、その学部学科を志望しているのか。」新しい情報を収集することも忘れずに。進路資料室には就職・進学に関するたくさんの情報がありますので、どんどん活用してください。